

第 1 期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 実績評価

1. 第 1 期総合戦略の概要

市人口ビジョンで示された木津川市の人口の現状と動向に基づき、将来のまちの姿と人口目標の実現に向け、今後 5 か年の目標や施策の基本目標を定め、その進捗・達成状況の評価を行う。

若者を中心とした人口流出の抑制と木津川市への流入促進、雇用の確保、出産・子育て環境の整備、地域の連携・交流の促進といった木津川市の課題を踏まえ、一人でも多くの方に「木津川市に住みたい。住み続けたい。住んでよかった。」と実感頂ける魅力あるまちづくりを進めるため、次のスローガンと、6 つの基本目標を定めたもの。(平成 27 年 10 月策定)

計画期間：2015 年度（平成 27 年）～2019 年度（令和元年）の 5 年間

戦略スローガン：『子ども育マチ・きづがわいい』	
基本目標 1	学研都市としての特性を活かした産業の活性化、都市近郊農業の振興・活性化、企業誘致・立地による雇用と就業の創出
基本目標 2	交流人口の増加、地域住民による「地域活性化・観光」の展開
基本目標 3	「子育て支援 No. 1」を目指した施策の充実
基本目標 4	小さな拠点を活用した個性と魅力あふれる地域コミュニティの充実
基本目標 5	地元教育機関や企業との連携によるまちの活性化
基本目標 6	まちづくりに取り組む、取り組もうとする人材の支援・創出

2. 評価基準

評価	内容
A	非常に効果的であった（達成率が 100%以上）
B	効果的であった（達成率が 80%以上で、実績値が事業開始前よりも前進・改善したもの）
C	概ね効果的であった（達成率は低い、実績値が事業開始前よりも前進・改善したもの） (実績値が事業開始前よりも後退・悪化したものの、達成率が 80%以上)
D	効果がなかった（達成率が 80%未満で、実績値が開始前よりも後退・悪化したもの）

3. 実績評価

数値目標（K P I）		策定時 (現況値)	目標値	実績値	達成率	評価
基本目標 1	就業者数(人)	31,137	32,277	32,271	99.9%	B
	首都圏での市内農産物流通量(t)	0	21	7.9	37.6%	C
	子育て 子育てサポート企業（厚生労働省）認定延べ件数	0	5	7	140.0%	A
基本目標 2	観光入込客数(人)	921,388	1,000,000	965,000	96.5%	B
	観光消費額(千円)	2,040,124	2,215,000	2,110,000	95.3%	B
	子育て 里地里山などを活用した多世代交流や婚活イベント支援延べ件数(件)	0	5	13	260.0%	A
基本目標 3	合計特殊出生率	1.54	1.8	集計中	—	—
	子育て 「保育、子育てを支援するサービス」に対する満足度(%)	23.5	33.8	23.7	70.1%	C
基本目標 4	市外からの滞在人口(人)	50,186	52,000	54,968	105.7%	A
	まちへの愛着度(%)	68.6	73.0	72.5		B
	子育て 「通勤・通学の交通の便利さ」に対する満足度(%)	34.7	39.7	31.9	80.4%	C
基本目標 5	京都大学との講座・体験学習連携実績(件)	0	21	18	85.7%	B
	ブランド農産品開発数(品)	0	2	12	600.0%	A
	子育て しごと・職場体験学習延べ活動日数(日)	70	100	85	85.0%	B
基本目標 6	マチオモイな仲間たちの支援創出実績(人)	0	60	89	148.3%	A
	定住意向率(%) (→中学生アンケート定住意向率(%))	66.2 (50.6)	71.0 (—)	— (40.4)	—	D
	子育て 中学生アンケートにおける住みよさ満足度(%)	83.6	85.0	77.0	90.6%	C

4. 各基本目標の事業内容、課題と今後の方向性

基本目標	主な事業内容	課題と今後の方向性
1 学研都市としての特性を活かした産業の活性化、都市近郊農業の振興・活性化、企業誘致・立地による雇用と就業の創出	<ul style="list-style-type: none"> ○木津川カフェ開催事業 ○新産業創出交流センター及び学研都市活性化協議会負担金事業 ○農で頑張る協議会負担金、木津川ブランド推進事業 ○展示会出展補助金、認証取得補助金事業 ○ふるさと応援事業(山城ごはん、農小屋を活用した加工場、たけのこバーガー、若手茶師によるブランディング事業、学研都市の企業を対象とした里山ツアー) 	<ul style="list-style-type: none"> ○学研区域内では大学研究機関や企業立地が着実に進んでいる。引き続き、子育て世代の仕事と家庭の両立がかなう環境づくりとして、雇用確保を推進するため、企業立地の促進だけでなく、市内中小企業の創業支援にも努める。また、地場産業や地元農業とのマッチングを進め、新たな地域経済の活性化に努める。 ○遊休農地の発生防止や農業の担い手不足の課題解決に向けて、農業技術者研修などの育成支援やブランド農産物を推進するとともに、地域経営の視点から農産物の地産地消を促進し、学校給食との連携、新たな市内農産物直販所などの拡充などに努める。 ○市内農業者、商業者、クリエイターなどで組織する「木津川市農で頑張る協議会」の自立に向けた体制づくりが課題であり、クリエイターを中心とした事業化の支援や、さらなるマッチングに努める。 ○基本目標K P I の首都圏での新たな市内産農産物流通量は大きく目標に到達できなかった。これは市内産農産物の地産地消にウエイトを置いたことによるものであるが、今後は民間と協働しながら、首都圏も含めて市内流通量を増加する取り組みを検討する。
2 交流人口の増加、地域住民による「地域活性化・観光」の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○プロモーション映像作成事業 ○公衆無線 LAN 環境整備事業 ○ふるさと応援事業(木津川婚パ、京都南山城古寺巡礼秘宝ツアー) ○山背古道推進協議会負担金事業 ○ラッピング車両運行事業 ○お茶の京都DMO、お茶の京都博開催負担金事業 ○学研木津北地区保全活用事業 	<ul style="list-style-type: none"> ○「お茶の京都DMO」や「関西本線ラッピング車両運行」などの木津川市域だけでなく、新たな京都府南部地域を中心とする広域的エリア周遊の仕組みづくりが進んでいる。引き続き、お茶のテーマに沿った広域的な滞在パッケージなどの商品開発やイベント開催などにより、地域内外における交流の促進や観光消費の拡大に努める。さらには、誰もが住みやすいまちづくりとして、外国人労働者の受け入れ、インバウンドなどによる交流人口の増加に対応するため、多言語対応のまちづくりの推進に努める。 ○市内には、学研区域を中心とした人口が増加する地域と人口減少や高齢化が進む地域が存在している。今後は、市域全体の人口定住化や交流人口の増加に向けて、市民や地域が自主的に移住促進や婚活支援などに取り組む活動への支援に努める。

基本目標	主な事業内容	課題と今後の方向性
3 「子育て支援No.1」を目指した施策の充実	○福祉医療費助成事業 ○小学校英語指導講師事業 ○ふるさと応援事業（KIZU-NA 紡ぐプロジェクト） ○喫茶去事業 ○子育て支援情報ホームページ開設	○子育て世代が、安心して子どもを産み育てられることができるよう、子育て支援No.1のまちづくりを目指し、待機児童0人の継続や、子育て支援アプリの創設などによる情報発信、つどいの広場の増設、ファミリー・サポート・センター事業の充実、子育て支援包括支援センター「宝箱」の開設などを進め、全国的に人口減少や少子高齢化が進む中、子育て世代の転入者が進められている。引き続き、総合戦略の柱である「子育て」、第2次総合計画の将来像「子どもの笑顔が未来に続く 幸せ実感都市 木津川」を目指し、子育て、子育てのまちづくりに取り組む。 ○子育て世代を支援する、市民や地域、団体などが、それぞれの持ち場で、木津川市の未来を担う子どもたちの子育て、子育てのまちづくり活動が増加している。引き続き、その活動の充実や新たな活動の創設への支援に努める。 ○小学校児童が、お茶教室やイングリッシュカフェ等、地域住民と交流できる喫茶去事業を展開し、地域の方々が集い、子どもたちの居場所づくりを推進しているが、プレイヤーの創出が課題となっている。引き続き、地域との交流のあり方を検討し、地域や子育て支援団体などと連携しながら、子どもたちの居場所づくりに努める。
4 小さな拠点を活用した個性と魅力あふれる地域コミュニティの充実	○バス交通活性化支援事業 ○小さな拠点づくり事業 ○当尾ふるさと元気拠点づくり事業 ○安心・安全防犯カメラ設置事業 ○ふるさと応援事業（梅谷カフェ、南加茂台発きづがわ魅力発信事業、加茂観光案内所事業、高齢者等を対象とした移送サービス事業）	○市内で頑張るまちづくりに取り組む市民や団体により、加茂駅観光案内所や梅谷カフェ、南加茂台発魅力発信事業、加茂支所高齢者移送サービスと居場所づくりなど、各地域の特性や課題に応じた、個性と魅力あふれるまちづくり活動が進められている。これらの活動が継続できる環境づくりが今後の課題であり、次代の人材確保や様々な情報共有、団体間交流の促進とマッチング等、事業が継続しやすいような支援に努める。 ○当尾の郷会館は、地域住民の活動拠点に加え、当尾の郷クリエーションプロジェクトなど、民間との協働による拠点として利活用されており、引き続き、当尾地域力創造プランに基づき、地域活性化に向けた複合的な多機能拠点づくりの施設として利活用に努める。

基本目標		主な事業内容	課題と今後の方向性
5	地元教育機関や企業との連携によるまちの活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○スマートウェルネスプロジェクト事業 ○ふるさと応援事業（1まち1キャンパス事業） 	<ul style="list-style-type: none"> ○平成28年度に京都大学大学院農学研究所附属農場が開校し、市民向けのオープンキャンパスの開催など、学研区域に転入された子育て世代などが、最先端の農業研究を身近に感じることができている。今後は、さらなる連携を強め、ブランド農産品などの共同育成などに努める。 ○京都大学や同志社大学プロデュースプロジェクト事業などの教育機関と連携し、市内の自然・歴史・文化等の特色ある地域資源を活かした研究活動から、研究者や大学生によるまちづくりへの新たな視点での助言や、大学生と児童生徒が触れ合うことによる機会を創出できている。引き続き、学研都市の中核を担う自治体として、大学や企業等と連携を深め、子どもたちが最先端の科学技術に対する知識を身につけるとともに、木津川市に誇りを持ち、将来に向けた定住意識の向上に努める。
6	まちづくりに取り組む、取り組もうとする人材の支援・創出	<ul style="list-style-type: none"> ○木津川アート事業 ○ふるさと応援事業（キチキチプロジェクト） ○SNSを活用した情報発信事業 	<ul style="list-style-type: none"> ○ふるさと応援事業補助金の創設により、様々な知恵、発想及び郷土愛等を活かした、市内で頑張る14の個人・団体のまちづくり活動を支援することができている。これらの活動が継続できる環境づくりが今後の課題であり、次代の人材確保や様々な情報共有、団体間交流の促進とマッチング等、事業が継続しやすいような支援に努める。 ○木津川アートをはじめとする、市民、地域、ボランティア、団体及び企業などとの協働によるイベントの開催により、新たな木津川市の魅力発信や地域資源の掘り起こしが進められている。引き続き、市民協働によるまちづくりを進めるため、様々な事業を通じて、まちづくりに取り組む、取り組もうとする人材の支援と創出に努める。